

■教養教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
生活と経済	経済の問題、と聞くと難しい、と身構えてしまう人は多いのではないのでしょうか。しかし、おやつを食べるかどうか、そしてどんなおやつを食べるのかも経済の話です。また、働いてお金をもらうことも、現金で買うかクレジットカードを使うかどうかでも経済の話です。価値の生産からお金の貯め方まで、身近な選択行動から経済の姿をゆっくりと考えていきましょう。	松葉 敬文
生活と福祉	「生活」という言葉は、いろんなところで耳にしますが、それはいったいどういう意味を持っているのでしょうか？そして生活は、どういふふうになり立っているのでしょうか？この問いに対し、本講義では「健康で文化的な最低限度の生活」という憲法に保障された生活の権利が奪われてしまった状態としての「貧困」という問題から考えていきたいと思います。みなさんの疑問や関心に即して進めていきたいと思いますので、積極的な参加を期待しています。	南出 吉祥
現代社会と法律	現代社会は当然ながら法律の社会でもある。人々は法の支配のもとにあって、初めて安全と安心を確保できる。では、法律とは一体何であろう。本講義では、法とは何か、憲法とは何か、の根本にさかのぼりながら、現代社会にとって法律がどんな意味を持っているのかを考え、憲法の社会権を中心に、現代社会における法の到達点と課題を究明する。	近藤 真
生物学	生命の本質は2つあります。その一つは、遺伝情報を自己複製することで後世に伝えていくこと、そしてもう一つは、代謝活動により個体の生命活動を維持することです。本授業では、まず生命の基本単位である細胞の構成要素、各器官の働き、遺伝について学び、さらに生命活動を、生殖方法、発生、機能分化などの観点からみることで、どのように個体が維持されているかを学びます。最後に、生物と環境の関わりや生命科学の諸問題について、最近の話題を取り上げながら、生命科学与社会の問題を考えます。	三宅 恵子
生活と環境	人間は、人間を取り巻く「自然環境」、人間が作り出した「人工環境」、家族や制度、法律、経済などの「社会環境」、さらには近年発達が目ざましい「情報環境」など、様々な「環境」に囲まれて生活している。この「生活と環境」では、これらの環境が絡み合う複雑な現代社会を、心身ともに健康に生活していくため、人体、衣、食、住等の環境に関する知識を習得し、また、人間が置かれた社会環境の理解を深める。なお、開講順と開講演題は変更される場合がある。	オムニバス
生活と化学	日常生活の中で、わたしたちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかかわりがある。化学がふだんの暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解ができるように配慮し、なるべく身近な事柄を題材に選び、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。	小野 廣紀
日本社会の歩み	この授業では、私たちが生活する現代社会に直接つながる「国民国家」の成立以後について学ぶことを主眼としながら、その形成過程である近世社会の歩みを、いくつかのトピックから振り返ってみたいと思います。近世から近代への歴史をたどることで「日本社会の歩み」について認識を深め、「現代社会をより『意識的に』に生きる」姿勢を養うことをねらいとしています。歴史知識の多寡を問うのではなく、私たちの毎日の生活に活かす歴史学的方法を身につけてほしいと願っています。	森田 晃一
心理学	心理学は心の問題を扱うもっとも中心的な学問であるが、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな「心の見方」を概観しながら、人の心理についての理解を深めることを目指す。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。	吉田 琢哉
ジェンダー論	少子化、晩婚化、男女別姓、不妊治療、子供虐待など、新聞等のメディアでよく取り上げられている「社会問題」は、いったいどのような背景からそれらが「問題」として扱われているのでしょうか。この講義では、よく目にするテーマの「問題点」をジェンダー学的視点から再検討し、学生自らの視点でこれらの問題点の「再構成」を目指します。	相原 征代
文学と映像	表現されたものを読み取り、表現されたものを理解する方法について学び、修得します。表現は、その媒体の特質を利用しながら、伝えたいことを様々な「かたち」で表現します。この授業では、ことばを主とする「文学作品」と、映像や音を主とする「映像作品」を題材に、そこではどのような「表現」の「たぐらみ」がなされているかを、実際の作品を通して考えてゆきます。自分自身で作品が分析できるようになる(単なる印象ではなく)ことが目標です。	杉山 寛行
スポーツ実技	スポーツや運動を生涯にわたって継続していくうえでは、楽しむことが大切です。そのために重要なことの一つとして、どのようなスポーツ・運動が自分の好み・体力特性・得手不得手などに合っているかを認識しておくことが挙げられます。この授業は体験型の授業とし、皆さんがこれまでの学校体育で経験してきた種目から、あまり馴染みのない種目まで、できるだけ多くの種目をカテゴリー毎に実施します。様々な種目を楽しみながら体験し、生涯スポーツ実践の礎が築かれることを目標とします。	佐野 真也
健康とスポーツ	この授業では、前半に各種スポーツを実施します。ただし、「スポーツ実技」とは異なり、単に身体を動かすだけではありません。運動時の消費エネルギーの求め方、健康のための身体活動量の目標値、心拍数による運動強度の設定などについての解説をし、実際に計算や測定を行います。身体だけでなく頭も使うことで、健康とスポーツ・運動との関わりについての理解を深めます。後半は、スポーツや運動によって得られる健康に対する効果、身体の変化などの基本事項についての講義を行い、さらに理解を深めます。	佐野 真也
情報処理 I (基礎) (英文)	Windowsの基本操作から始めて、ワープロソフト(Word)と表計算ソフト(Excel)の基本操作を学ぶ。	松浦 康之
情報処理 I (基礎) (国文)	本講義では、コンピュータに慣れ親しみ、基本的なコンピュータ操作を学ぶことでコンピュータリテラシーの技術を修得することを目標とする。他の授業のレポート作成など今後の学生生活でもコンピュータを使うことは必須であるため、Windowsの基本操作を学ぶことから始めて、Word(ワープロソフト)やExcel(表計算ソフト)の基本操作方法を学ぶ。また、授業では文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催するワープロ検定2級の資格取得を意識したビジネス文書の作成なども行う。	木村 充位
情報処理 I (基礎) (食栄)	ワープロソフト(MS Word)、表計算ソフト(MS Excel)、プレゼンテーションソフト(MS PowerPoint)の基本操作を学習する。	船越 弥生
情報処理 I (基礎) (生デ)	本講義では、ワープロソフト(MS Word)、表計算ソフト(MS Excel)、プレゼンテーションソフト(MS PowerPoint)の基本操作を学習する。それらのアプリケーションに触れながら学び、演習問題に取り組む事で、基礎的な技能を身につける。	臼井 直之

■教養教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
情報処理Ⅱ (応用) (英文)	本講義では、情報処理Ⅰで演習したことを基礎にしてデータベースの作成や操作など実践的な表計算ソフト(Excel)の利用方法、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の利用方法、ホームページ作成ソフト(Home Page Builder)のスタイルシートを利用したホームページの作成方法などを学ぶ。また、文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催する情報処理技能検定2級、ホームページ作成2級の資格取得を意識した演習も行う。	木村 充位
情報処理Ⅱ (応用) (生デ)	情報を扱い、資料を作成する上での留意点を学ぶ。MS Word、Excel、PowerPointの応用技術を演習課題によって習得する。PowerPointの学習では、スライド作成に加え発表も行い、プレゼンテーション技術についても学ぶ。後半はAdobe Photoshop、Illustratorの操作を学び、演習課題の制作を通して専門分野に関わらず応用可能なグラフィックデザインの基礎技術を習得する。	坂本 牧葉
英語Ⅰ (国文)	中学校や高校で学んだ文法中心の受験英語から離れ、さまざまな角度から英語にアプローチする。ただ「英語を学ぶ」だけではなく、「英語で遊ぶ」というスタンスで演習を行い、英語が苦手な学生でも抵抗感なく英語に触れて楽しめるような材料に取り組み、自分に合った英語アプローチ法を各自発見してもらう。教養教育科目の「英語Ⅰ」～「英語Ⅳ」は専門科目ではないので、高いレベルを到達目標とはしないが、これらの授業で出会ったさまざまなアプローチ法を各自とりいれて、自主的かつ継続的に英語学習に取り組んでもらいたい。	恩田 幸治
英語Ⅰ (食栄Aクラス)	イギリスの文化・歴史・言語について書かれた文章を読み、総合的な英語力の向上をめざす。英語の歌、重要構文の暗唱など、硬軟取り混ぜた言語活動を行っていききたい。	梅澤 敏郎
英語Ⅰ (食栄Bクラス)	BBC制作の映像を通じて英語リスニング力や英語表現の学習を多角的に行う。キャプションのついた視聴覚教材に接することにより、自動的に偶発的なリーディングを促し、多様な英語学習を展開して楽しく英語を学ぶ。興味深いトピックの平易な英文読みものに触れることによって英語の基礎力を充実させる(とくに単語の品詞や基礎的な構文)。また、イギリス英語やアメリカ英語の発音やリズムの違いなども学ぶ。	中西 満貴典
英語Ⅰ (生デAクラス)	ナショナルジオグラフィックの映像を使ったアクティビティを通して、実際に使える英語力の向上を目指す。旅行で使えるシチュエーション別のSpeaking力や、手紙など英語を使ったWriting力を向上させながら、世界の様々な文化に目を向けられるようにする。また、少々難解なTOEICの問題にもグループでチャレンジし、発展的な英語力を身につける。	古東 佐知子
英語Ⅰ (生デBクラス)	英語学習の4 skills を発展させるクラスです。Phonics で音の確認をし、Mother goose songs でリズム、イントネーション、リンキングを養い、英文日記でwritingを練習し、テキストで reading や総合的な学習を目指します。またタイム誌、朝日ウイークリーで世界事情を見ましょう。クラスでは互いに英語を話し、聞きましょう。学習の将来の世界が英語を通してさらに広がるでしょう。	柴田 達子
英語Ⅱ (国文)	1年次前期の「英語Ⅰ」同様、さまざまな角度から英語にアプローチする。引き続き、「英語を学ぶ」だけではなく、「英語で遊ぶ」というスタンスで演習を行い、英語力を向上させていく。英語に対する苦手意識のある学生でも気軽に楽しめるようなハンドアウトや視聴覚材料を豊富に用意し、各学生が自分に合った勉強法を発見できるきっかけを提供したい。専門科目ではないので、高いレベルを到達目標とはしないが、この授業で出会った多様なアプローチ法をとりいれて、各自が自主的・継続的に英語学習に取り組んでもらいたい。	恩田 幸治
英語Ⅱ (食栄Aクラス)	英語学習の4 skills を発展させるクラスです。Phonics で音の確認をし、Mother goose songs でリズム、イントネーション、リンキングを養い、英文日記でwritingを練習し、テキストで reading や総合的な学習を目指します。またタイム誌、朝日ウイークリーで世界事情を見ましょう。クラスでは互いに英語を話し、聞きましょう。学習の将来の世界が英語を通してさらに広がるでしょう。	柴田 達子
英語Ⅱ (食栄Bクラス)	1年次前期の「英語Ⅰ」同様、さまざまな角度から英語にアプローチする。引き続き、「英語を学ぶ」だけではなく、「英語で遊ぶ」というスタンスで演習を行い、英語力を向上させていく。英語に対する苦手意識のある学生でも気軽に楽しめるようなハンドアウトや視聴覚材料を豊富に用意し、各学生が自分に合った勉強法を発見できるきっかけを提供したい。専門科目ではないので、高いレベルを到達目標とはしないが、この授業で出会った多様なアプローチ法をとりいれて、各自が自主的・継続的に英語学習に取り組んでもらいたい。	恩田 幸治
英語Ⅱ (生デAクラス)	英語のコミュニケーション能力の伸長を目的とする。CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、内容理解、ディクテーション、音読、ロールプレイ、シャドーイングなどのさまざまな活動をとおしてリスニング力やスピーキング力を高め、実践的なコミュニケーション能力を養う。復習として、随時ディクテーションの小テストを行う。身近な話題(My free time)でのスピーチができるようにする。	小島 ますみ
英語Ⅱ (生デBクラス)	身近な話題を扱った教科書を基に、リスニングとスピーキングの練習を繰り返し行い、総合的な英語力の向上を目指す。英語を発話する機会をなるべく多く作ることににより、英語を使うことを楽しいと感じることができるようしていきたい。	鈴木 辰一
英語Ⅲ (国文)	1年次の必修科目である「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」で英語の多面性に触れてもらったので、2年次の選択科目である「英語Ⅲ」と「英語Ⅳ」ではインプットだけではなくアウトプットの演習も行う。具体的には「読む・聴く」のがインプットであるのに対し、「書く・話す」のがアウトプットである。そこで、この授業では英語で自己紹介や日記、エッセイを書いてもらったり、英語で書いた詩や俳句を発表してもらったりしながら、英語の発信力も高めていく。また、1年次に引き続き、基本的かつ実用的なボキャブラリーの増強も目指す。	恩田 幸治
英語Ⅲ (食栄・生デ)	The aim of this class is for students to learn English that is useful and necessary for a variety of situations when travelling and studying overseas. Emphasis will be put on increasing students' English vocabulary. Each week, there will be a vocabulary quiz. Classroom activities include listening and reading practice, along with dialogue practice in pair	コットン ランダル
英語Ⅳ (国文・食栄・生デ)	「英語Ⅰ」～「英語Ⅲ」で英語の多面性に触れてもらったので、「英語Ⅲ」同様、「英語Ⅳ」ではインプットとアウトプットの演習を行う。「読む・聴く」というインプットと「書く・話す」というアウトプットの練習を並行して行うことで英語の運用能力を高めていく。具体的には「英語Ⅰ」～「英語Ⅲ」と同じような内容の演習であるが、より高いレベルの教材に取り組んでもらうことで、総合的な英語力を伸ばすことを目標とする。また、英語のスキルだけでなく、コンテンツを充実させることを目指す。	恩田 幸治
フランス語Ⅰ	英語での学習経験を思い出さなくとも、母国語においても言葉を明快に使いこなすことは相当の時間を要します。言語の仕組みである文法は「時間節約のカギ」とみなし、新たな外国語フランス語に取り組んで欲しいと考えます。文法の基礎を会得しながら、日常でよく使われる表現も少しずつ覚えていきます。「初めて」でも授業は一定のリズムで進むので、復習・予習は不可欠となります。	八代 恵子

■教養教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
フランス語Ⅱ	同じアルファベ(ット)であるからこそ、フランス語の綴り字の読み方はしばしば学習者の苦手意識の原因ですが、その規則性は楽譜のように明確です。多くの学生には最後の学習機会なので、将来の自律学習のためにも一人でフランス語読みができる、また英語と同様の基本文法項目にも目を通すことを目標とします。状況表現では、この言語独特のリズム・イントネーションの習得にも心がけます。	八代 恵子
フランス語Ⅲ	基本的な文法事項を習得している学習者の語学力向上を目指します。フランス語ⅠⅡのテキストを引き続き使用し終了します。2年目は学習者・教員ともに余裕のある学習空間が得られるので、1年目では取り組めなかった過去や未来といった時制をとおして、より豊かなコミュニケーション力につなげたいと考えます。	八代 恵子
フランス語Ⅳ	テキストにない文法項目をプリント教材で確認し、フランス語文法学習を終えます。時間の許す限り仏語文化圏において生活者が利用するものを使用したいと考えます。また「欧米文化」に括られない「フランス文化」には僅かでも毎回接触したいと思います。	八代 恵子
教養演習 (英文)	教養演習では、英語英文学科各教員の研究分野を知るとともに、研究の方法や論文作成の作法など、大学で学ぶための基礎教養を身につけることを目標とする(大学生としての心構え、権利と義務、公立短期大学である本学の特色等も含む)。同時に、本を読む力、物事を調べる力、記録する力など、学生として基本的に必要な事柄を学ぶ。また、学外研修として岐阜市内の史跡、文化施設、町並み等の見学、鶉飼見学を実施しその成果をまとめる演習も行う。	英語英文学科 各教員
教養演習 (国文)	10人程度のゼミ形式で、文章言語表現・レポート作成・文献検索・口頭発表の仕方など、学習活動に不可欠な基本訓練を行う。更に、今後の就職活動の準備の仕方などについても指導を行う。各担当教員は、授業だけでなく、受け持つ学生のアドバイザーとなり、2年間を通して勉学、生活、就職上の相談にのる。また、各担当教員が設定したオフィスアワーには、優先的に相談に応じる。	国際文化学科 各教員
教養演習 (食采)	大学生として身につけるべき基礎能力を養う。すなわち、コミュニケーション、グループワーク、情報収集、プレゼンテーション、総合的な判断などを、10名程度のグループ学習の中で学ぶ。食物栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をする。これらを通して、広い視野から物事をとらえ判断する力、および、責任感、行動力、人間性を培う。	食物栄養学科 各教員
教養演習 (生デ)	大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得する。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得する。	服部 宏己